

～ トピックス 「村上節太郎文庫」公開！ 図書整理系より ～

「村上節太郎文庫」の公開まで

故村上節太郎氏の蔵書を、平成 14 年 4 月、ご子息の雅康氏からご寄贈いただいた。

旧蔵者の略歴

明治 42 年～平成 7 年（1909～1995）愛媛県喜多郡天神村（現在の内子町）平岡に生まれる。昭和 10 年（1935）に東京文理大学理学部地理学科卒業。理学博士。愛媛大学名誉教授、地理学。教育者として愛媛の教育に尽力する一方、委員等を歴任し、郷土誌の研究や産業等の振興にも努めた。

旧蔵資料の概要

松山市内の自宅及び旧五十崎町の生家に、約 40 万点余りの膨大な資料が保存されていた。そのうち、図書資料は当館に、その他の写真、雑誌、研究用資料、生活用具等は、愛媛県歴史文化博物館に寄贈された。

文庫の特色・冊数

全冊数は 10,043 冊。昭和期の資料がそのほとんどを占める。特に昭和中期が多い。氏は、松山市内の自宅のほかに、恵まれた保管場所を持ち（生家と蔵に書棚を設置）手元集った資料を、ほぼすべて保存していたと推測される。その多くは、研究のために収集した資料であろう。専門の地理学はもちろん、郷土誌、農業、都市開発、和紙、移民、風、塩等、氏の関わった分野は実に広い。特に柑橘関係については、一般に入手しにくい資料も多く、特色ある資料群といえる。

ご寄贈を受けた後、2 か所より資料を搬出、燻蒸（殺虫・殺菌）を行い、平成 14 年 10 月から整理を開始。途中、やむを得ない事情により中断した時期もあったが、平成 18 年 4 月に終了し、無事公開となった。

当館ホームページ上の蔵書検索にて検索可能。別置記号「ㄆ」館内閲覧のみ。

氏との思い出

調査の際に訪れた村上節太郎氏の生家は、たくさんの資料とともに、世界各国の帽子やみやげ品、日常生活用具等が展示され、さながら「小さな博物館」であった。

氏は、当館で開催している「古文書解読講座」の役員を、永年にわたり引き受けてくださっていた。十数年前の当時、その講座の担当であった筆者もお世話になった一人である。開館に尽力された「五十崎風博物館」のパンフレットを下さり、「生家にもあるので、そちらに滞在中の時は見せてあげよう」とおっしゃってくださいました。オシャレなベレー帽をかぶられ、気さくで、心優しい紳士であられたことを記憶している。

海を渡った伊予の地図

平成 16 年秋のある日、関東地方にお住まいの B さんからお手紙が届いた。B さんがアメリカ在住の姉の家に滞在した際、隣家に住んでいた A 氏と親しく会話を交わした。A 氏は終戦とともに松山に進駐した兵士の一人であった。その手紙の内容は、A 氏の思いを告げるものであった。「当時の松山は松山城以外ほとんど壊滅状態で気の毒な様子だったが、人々は大変友好的かつ礼儀正しく、とても楽しかった。帰国する際、経緯は忘れてしまったが、松山の記念として古地図を入手することができ、それを持ち帰った。地図をみるたびに懐かしく想い出している。しかし、自分も高齢となった。この古い地図は松山の方々にお返ししたい。」

B さんはその仲立ちを頼まれたのであった。B さんは、その会話の端々から、A 氏が松山に寄せる親愛の情を強く感じたそうである。

古地図は 4 点あり、「愛媛県立図書館印」と押印されていた。当館で調査したところ、昭和 15 年 10 月末には、確かに当館資料として所蔵していたが、その後不明となっていた資料であった。戦時中、当館の資料を一時松山市山越に「疎開」していたこともあり、その頃か、あるいは戦後の混乱期に流出した可能性が高いことが分かった。戦後 60 年の時を経て、それらの地図は無事返還された。保存状態は非常によく、アメリカで大切に取り扱い扱ってくださったことがうかがえた。

「海を渡った地図」は、以下のとおりです。

愛媛県伊豫国和気郡御幸村宇山越愛宕山之図
KM31-ㄆ

松山市全図（明治 30 年 8 月刊） KM31-ㄆ-1897

松山城下地図（文化 14 年） KM31-ㄆ

豫豊環海半図 坤 KM00-ㄆ

館内でご覧になることができます。人々の心の架け橋を渡って太平洋を往復した地図、心に残る出来事でした。仲介の労をお取りくださった B さんに、心よりお礼申し上げます。

（図書整理係 名田 美由希）

寄贈のお願い

当館では、次のような愛媛県関係資料（図書、雑誌、パンフレット等）の収集に努めています。

- ・ 愛媛に関する内容又は県内で発行された資料
 - ・ 愛媛在住・出身又は縁のある方のご著書
- 郷土の貴重な記録として永く保存し、利用に供して参りますので、出版物ご刊行の際にはご寄贈いただきますようお願い申し上げます。（担当 図書整理係）

伝えよう読書のよろこび、広げよう感動の輪

愛媛県読書グループ連絡協議会(県読連)総会・読書推進大会だより

平成 18 年度「県読連総会並びに読書推進大会」が 6 月 30 日(金)、にぎたつ会館(松山市道後)で開催され、県下各地より読書教育関係者、読書グループ関係者等 150 名が集った。



「大会は年 1 回の実施」「年会費一人 500 円に」

総会では「県読連の今後の方向性」を見いだすことが大きな議題であった。現在県読連は、先の市町村合併等に伴い、加入人数が大幅に減少し、深刻な財政難に陥っている。大会運営をはじめ、円滑な事業推進がもはや困難になってきていた。そこで、昨秋の県読書活動研究大会に実施したアンケートの集計結果に基づき、今後の運営方針として以下の三つが提案され、承認された。

- 1 大会の持ち方について
魅力ある講師を呼び、当面は年に 1 大会の実施とする(今後、財源が潤えば、従来の 2 大会の実施もあり得る)。
- 2 会員加入(収入)を増やす方法について
会員、読書グループ、理事、事務局等……それぞれの立場で「本当の会員(仲間)」を増やすために地道な努力を継続する。
- 3 会費の値上げについて
年会費の値上げを行う。会員一人当たり 200 円から 500 円とする。

大会は当面、6 月の読書推進大会のみとなり、しばらくは「緊縮運営」が続くと予想される。このような中で、新しくスタートした「県読連 読書通信」の発行(平成 19 年 2 月現在、6 号)は画期的な試みであった。県読連の実践やアピールは、大会実施だけではない。広報活動を通して、県読連や読書グループ、読書活動などの情報を定期的に発信し、活動テーマ「伝えよう読書のよろこび、広げよう感動の輪」を正に実践するものとなった。

「読書グループならではの示唆」「優れた表現力」

総会後の読書推進大会では、東・中・南予の代表によって、他の読書グループへ大変示唆に富んだ推薦図書発表がなされた。

「共に育つ読書会」(四国中央市)森川啓子氏は、貴重な体験に基づいた説明や感想文発表を行い、『論語を楽しむ』(平澤興)、『山がくれたガンに負けない勇気』(小嶋修一)等の面白さを生き生きと伝えた。また、「赤ずきん読書グループ」(久万高原町)棟田栄子、渡部美鶴の両氏は、対話形式の、精選された言葉のやりとりで、『アフリカの瞳』(帚木蓬生)、『和宮様御留』(有吉佐和子)等の面白さや奥深さを明快にアピールした。「たんぽぽ読書会」(西予市)山本康子氏は、『海の蠍』(山下多恵子)、『蒼穹の昴』(浅田次郎)等を通して、人間としての大切な生き方に迫る実践を展開していることを力強く訴えた。

各グループの伝え合う活動の充実ぶりや、発表者の表現力豊かな語り口には、目を見張るものがあった。図書推薦というこの発表形態は、読書グループ本来の良さを引き出す有効な方法である。

「言葉からパワーをもらった!」講演会



午後は、テレビやラジオでおなじみのらくさぶろう氏を招いて「言葉からパワーをもらおう!」と題した講演会を行った。魅力たっぷりの話題、巧みでエネルギッシュな語り口に、会場全体が集中し、爆笑と歓喜の渦に包まれた。

「一人ですべてを演じ切るすごさ。それが落語の魅力。僕は言葉を扱う仕事だからこそ、落語をやっていて本当に良かった...」「人を笑わせるのは難しい。だからこそ、人に笑っていただけなのは快感」「人前で話すことの難しさ面白さを感じる。人を励まし、勇気づけるのもまた言葉である」「俳句に魅せられている。愛読書は歳時記。日本語のすばらしさを実感できるから好き」……会場を沸かせながらも随所で、御自身の読書経験や幼少体験、俳句・落語への見識や心情などを巧みに織り込みながら、私たち読書愛好者に「言葉」について分かりやすく説明して下さった。

第 2 部の落語は、正に「言葉の芸術」だった。氏の豊かな表現力、磨き抜かれた技に参加者は圧倒される。そこには、やはり氏の「落語(言葉)」への愛情があふれており、演題のとおり、氏が発表した数々の「言葉」から、私たちは確かな「パワー」をもらった思いになった。(富永 俊樹)

「パパ's 絵本プロジェクト」が来た！

第43回
愛媛県図書館講習会

8月18日(金) 県図書館協会や県立図書館等の主催により愛媛大学で、図書館講習会が開催され、県内の読書施設関係者等80名が集った。

午前の部の実践発表では、県立大洲農業高等学校から「図書館はおもしろい! 学校は楽しい!」と題して、図書委員会を活性化する方法について独自の報告がなされた。図書館だよりやポスターの作成、地域行事への参加などの精力的でユニークな実践を通して「この図書館は自分たちが造っている」という自信と誇りを持つ生徒が次々と育ってくる。貸出数が生徒一人当たり10.6冊という驚異的な数字もうなずける取り組みであった。

実践発表「『課題解決型図書館』としての県立図書館の取り組み」(県立図書館)では、



た「就職や起業な支援サービス」にした(P2、3参照)。絵本が好きな3人グループ「パパ's 絵本講座「お父さん

った。親の視点で選ぶ絵について持論を展開する。

「読み聞かせは、忙しいパパやママを一人占めする時間」絵本は触れ合うためのツール。コミュニケーションしている豊かで大切な時間を与えてくれるもの」...豊かな言葉のキャッチボールに参加者はすっかり魅せられてしまった。

えっ! こんな「お宝」あったん?

愛媛県立図書館
秘蔵コレクション初公開

県立図書館と県生涯学習センターは「文字・活字文化の日(10月27日)」記念事業として「愛媛県立図書館秘蔵コレクション初公開」展を、10月14~29日、同センターにて共同開催した。



公開展示した「お宝」は、県立図書館において、これまで保有してきた正岡子規の随筆の自筆原稿をはじめ、高浜虚子や柳原極堂等の自筆短冊を表装した屏風や俳誌『ほととぎす』、写真、切手、絵はがきなど愛媛に関する貴重な品ばかり。

観覧者は「これは貴重だ」「懐かしい」「すばらしい」などと一様に感嘆し、「愛媛を見つめ、愛媛の魅力を再確認できた」「新たな発見があった」と開催を喜ぶ声や「今後もこのような企画展をぜひ計画してほしい」定期的に実施してほしい」という要望がたくさん寄せられた。(富永 俊樹)

愛媛県立図書館の利用案内

【開館時間】

火曜から金曜...午前9時40分から午後7時まで
土・日・祝日...午前9時40分から午後6時まで
子ども読書室...午前9時40分から午後5時まで

【休館日】

月曜日(祝日の場合は、直後の平日)
年末年始(12月29日~1月3日)
特別整理期間(10日以内で館長が定める日)
館内整理日(毎月末日、ただし、その日が上記休館日、土・日曜日に当たるときは館長が定める日)

【駐車場】

図書館専用の駐車場はありませんが、県庁西駐車場(旧国際交流センター跡地)をご利用できます。ただし、駐車台数に限りがありますので、できるだけ公共交通機関のご利用をお願いします。

編集・発行 愛媛県立図書館

〒790-0007 松山市堀之内
TEL 089-941-1441 FAX 089-941-1454
<http://www.library.ne.jp/ehime/>
e-mail: tosyokan@pref.ehime.jp